

熱海市立多賀小学校

出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年7月5日(火)

「**“実体験ができる” “本物にさわれる” に勝るものはない！**と思いました。」



熱海市立多賀小学校の6年生64人が、社会科の授業で、実体験を通して、学びをより深めることを目的に、川西先生が昨年に引き続き計画して、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験をしました。

土器の分類体験

縄文土器、弥生土器、須恵器の3つの土器を紹介し、簡単な違いを確認した後



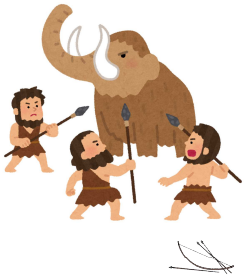
「3つの土器のうち、弥生土器と須恵器は、もようが似ていた。昔の人は土器をきれいに焼いていてすごい。」
「センターの先生は、土器を簡単に分けていてすごいと思った。」

土器片を分けます。土器片の割れた部分や模様や色等をよく観察して分けていました。作り方や、焼き方の違いを知ることで、3つの土器の違いに納得し、分類することができました。先人の知恵や工夫を知ることができ、本物の土器に触れる貴重な経験ができました。



石器の試し切り体験

土器の分類の後、引き続き石器の試し切り体験を行いました。木を削ったり、穴を掘ったり、武器にしたりして、石が様々な用いられたことを説明し、石の重要性を確認しました。次に、黒曜石で新聞紙や野菜くずを試し切りしました。石で物が切れることを実感しました。



「切れないと思っていたけど、すごい切れるんだと思った。」
「最初切れないと思っていたけど、のこぎりのようにやったら切れた。」
「工夫してすごいなあと思った。」



火起こし体験

はじめに、いろいろな火起こしの方法と火の大切さを考えました。その後、舞きり法のやり方を説明し、ポイントをおさえました。降っていた雨はやみましたが、空気中に湿気があり、火起こしの条件としてはあまりよくありませんでしたが、子どもたちは弾み車を頑張って回していました。火起こしの時間が40分と長かったため、何回も火を起こすことができました。もみぎり法や弓ぎり法で火を起こそうと頑張っている班もありましたが、……



川西先生の感想

「この日を楽しみにしている子どもおり、とっても楽しそうに活動していました。歴史が大好きな子が多いので、刺激になったようです。火起こしでは火がつきやすいように改良されており、湿度の高い中でも火を起こすことができました。また、お話も分かりやすく、子ども目線に立つて授業をやっていただけたことが良かったです。」

「みんなで力を合わせないと火が起こせないことがわかった。」
「とても大変だった。火の大切さが改めてわかった。」